1月号 全家研 月刊ポピー 国語 一口ポイント 教出版

▼今月の『ポピー』の国語で学習するおもな内容と大切なことがらです。

📖の数字は，教科書のページ数です。

1年 みぶりで　つたえる　📖89~101

●身ぶりを使うと、気持ちや考えがよく伝わることを述べた**説明文**です。

1　身ぶりでも、気持ちや考えを相手に伝えられる
2　身ぶりは言葉の代わりをする
3　身ぶりと言葉を一緒に使うと、伝えたいことを相手にうまく伝えられる
4　身ぶりは、気持ちを強く表すことがある
5　身ぶりを上手に使うと、伝えたいことをはっきり表せるようになる。

どんなときに、どんな身ぶりをするのかな？

2年 かさこじぞう　📖77~95

●地蔵様に笠をかぶせてあげた、じいさま夫婦の**物語**です。

●各場面ごとに、じいさまやばあさまの様子や気持ちを読み取ります。

- 貧しい暮らしのじいさま夫婦。
- 笠を売りに行くじいさま。
- 吹雪の中の六人の地蔵様に、笠と手ぬぐいをかぶせるじいさま。
- じいさまを優しく迎えるばあさま。
- お礼にくる地蔵様。

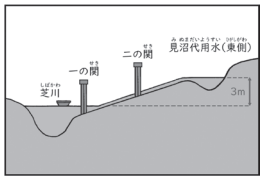
民話の語り口調を味わおう。

3年 川をさかのぼる知恵　📖83~93

●今から三百年近く前に使われていた水路「見沼通船堀（みぬまつうせんぼり）」について書かれた**説明文**です。水路を開いた人々の、知恵と工夫を読み取ります。

【見沼通船堀】川と、川を挟んで東西両側にある用水とを結ぶ水路。

- 川と用水との高低差三メートル。
- 川と用水の間に二つの「関」で壁をつくった。
- 関の壁で水位を調整し、エレベーターのように船を移動させた。



パナマ運河にも、同じ知恵が用いられているの。

4年 「便利」ということ　📖84~93

●「便利」とはどういうことかを書いた**説明文**です。

●身の回りの**道具**や**公共設備**を便利にするための解決方法を読み取ります。

道具や設備	解決方法
玄関チャイム	使う人の立場によって、仕組みを変える。
はさみ、包丁	使う立場の人に合った物を別々に用意し、最も使いやすい物を選べるようにする。
歩道橋	不便を強く感じる人が少なくなるようにつくったり、改良したりする。

道具や設備に不便を感じる人がいないか、考えることが大事なんだね。

5年 提案文を書こう　📖74~79

●自分たちの生活をよりよくするための**提案文**の書き方を学びます。

1　取材して、提案する事柄を決める。
- 考えたことを書きためておく。
- 友達や先生などに取材する。
- 身の回りで探してみる。

2　提案文の構成を考える。
- 始め…話題提示
- 中…提案のきっかけやその理由
- 終わり…今後の願い

3　提案文を書き、推敲する。
- 読む人に伝わるように、具体的に書く。

4　提案文を読み合い、感想を伝え合う。

6年 伊能忠敬（いのうただたか）　📖77~101

●江戸時代末期、自分の足で歩き、日本中を測量して詳細な地図を作った伊能忠敬の**伝記**です。

四十九歳　今の千葉県で、地主であり商売をしていた忠敬は、長男に家業を譲り、翌年、江戸で、天文暦学者・高橋至時（よしとき）の弟子になる。

五十五歳　蝦夷地の測量に出発する。

六十歳　東日本の沿岸地図を作り上げ、西日本の測量に出発する。

志さえあれば、年齢など関係ないのじゃな。